授業づくり研修講座　実践レポート

相武台東小学校　　氏名　白鳥　稔恵

単元名　　第6学年　　「よさを伝える広告」

実践のポイント（工夫）

・身近なものや自分が実際に使用した物、見たもの等を取り上げる。

実践内容

○教材文の２つの広告を比べ、印象の違いや表現の良さについて話し合う。

Ａ：比喩表現を使って食感などを伝えている

Ｂ：自然食品で健康効果を主張

同じ商品であっても、強調する内容や表現の工夫によって、全く異なる印象を与えるということに気付く。

○伝えたいものを考える。

・自分が普段使っているものや経験したことの中から選ぶ。

○キャッチコピーの目的や良さを知る。

・商品化されている日用品や食品などを実際にみてパッケージに使われている表現の工夫について知る。

・キャッチコピーが読み手や買い手に与える印象について話し合う。

○キャッチコピーと広告の文章を考える

・リズムの良さ、多方面からの視点、印象的な言葉を意識する。

○完成した広告を見合う。

・友達が書いた広告の良さを発表し、意見を交換する。

・助言や良さはメッセージとして残しておけるよう、付箋に書き残す。

振り返り

普段何気なく目にしている広告やキャッチコピーに様々な工夫がされていることを知り、それを自分で作るということに、とても興味を持っている様子が伺えた。また、普段自分がお気に入りとして使っているものや実際に体験したことを広告として伝えるということもあり、どのようなキャッチコピーにすれば読み手の心を惹きつけられるか、また、文章で良さを伝えるために文の構成や言葉の使い方を一生懸命に考えていた。普段は使わないような文章を書くということもあり、表現することの楽しさを感じている様子も見られた。完成した広告はお互いに見合い、助言や提案、良さを付箋に書かせ、メッセージとして残るようにした。付箋に書かれた友だちからの的確なアドバイスや感想を読み、自分の書いたものへの良さや改善点を見いだすことができていた。